

# 令和6年度 子育て世帯生活状況アンケート 結果

## 1 調査概要

### 調査の目的

子育て世帯の生活状況を調査し、子育て支援施策の基礎資料とする。

### 調査項目

- (1) 子育て世帯の生活状況について

### 調査の設計

- (1) 調査地域 飛騨市全域
- (2) 調査対象 令和6年度末で満1歳から満18歳までの子どもがいる世帯
- (3) 標本数 1,494世帯
- (4) 抽出方法 全数
- (5) 調査方法 インターネットフォーム
- (6) 調査時期 令和6年8月27日～9月13日

### 回答結果

- (1) 回答数：776件
- (2) 回答率：51.9%

#### 【776件中、学校区分ごとの件数（重複あり）】

未就園児 136件（18%） 保育園児 180件（23%） 小学生 381件（49%）  
中学生 250件（32%） 高校生 237件（31%） 大学生 82件（11%）

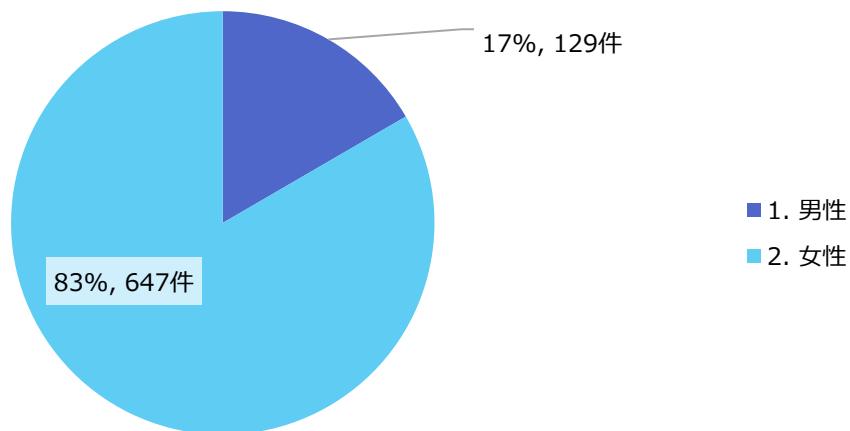
#### 【776件中、所得区分ごとの件数】

200万円未満 29件（4%）	200～299万円 44件（6%）	300～399万円 77件（10%）
400～499万円 99件（13%）	500～599万円 127件（16%）	600～799万円 192件（25%）
800～999万円 125件（16%）	1,000～1,499万円 69件（9%）	1,500万円以上 14件（2%）

## 2 調査結果

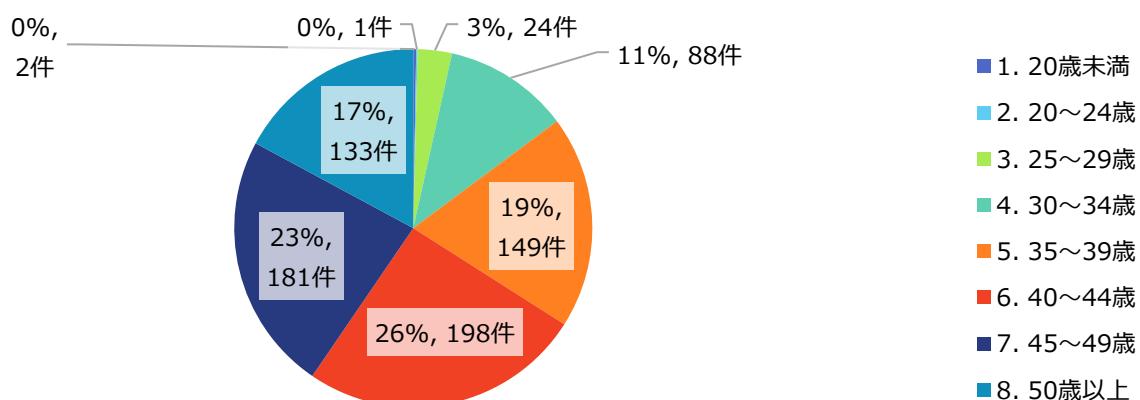
### Q 1 :回答者の性別について

【設問】 あなたの性別を教えてください



### Q 2 :回答者の年齢について

【設問】 あなたの年齢を教えてください



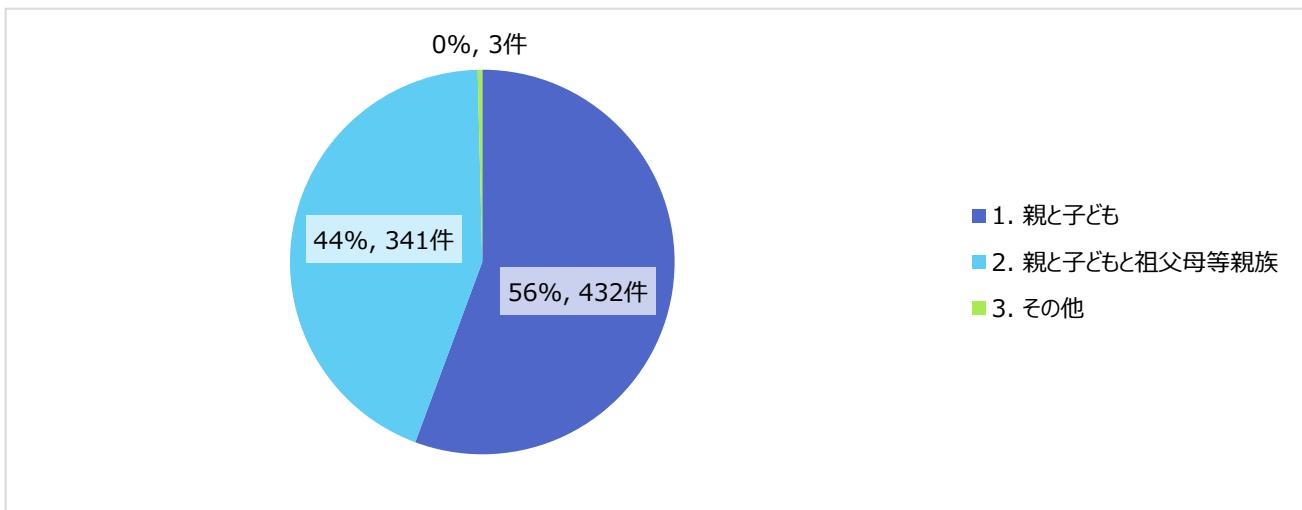
### Q 3 :回答者の配偶関について

【設問】 あなたの配偶関係を教えてください



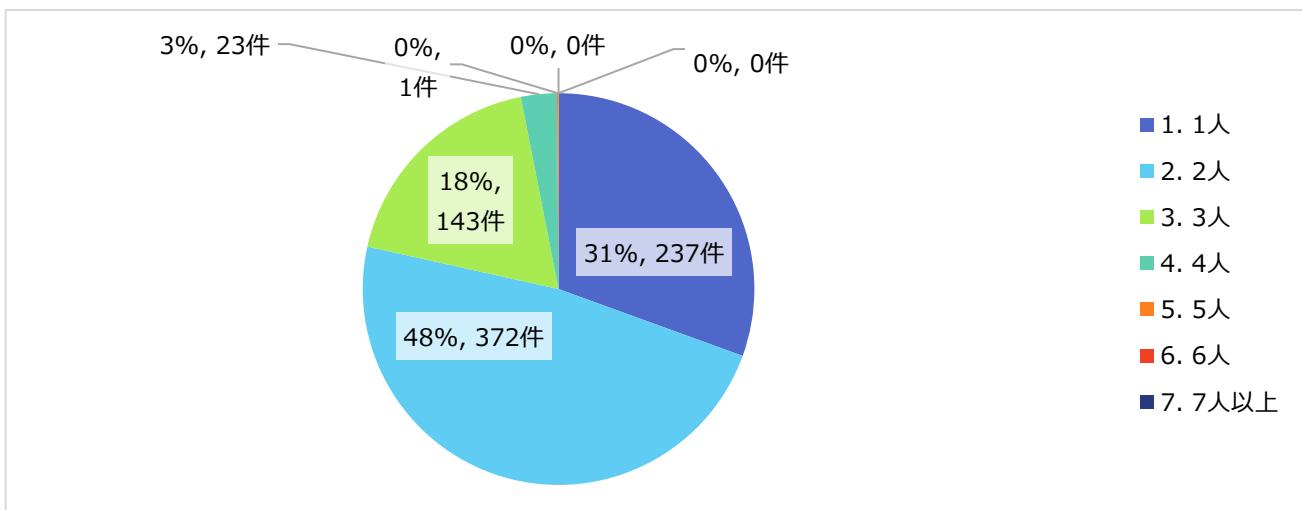
#### Q4：家族構成について

【設問】 お子さんを含む家族構成を教えてください



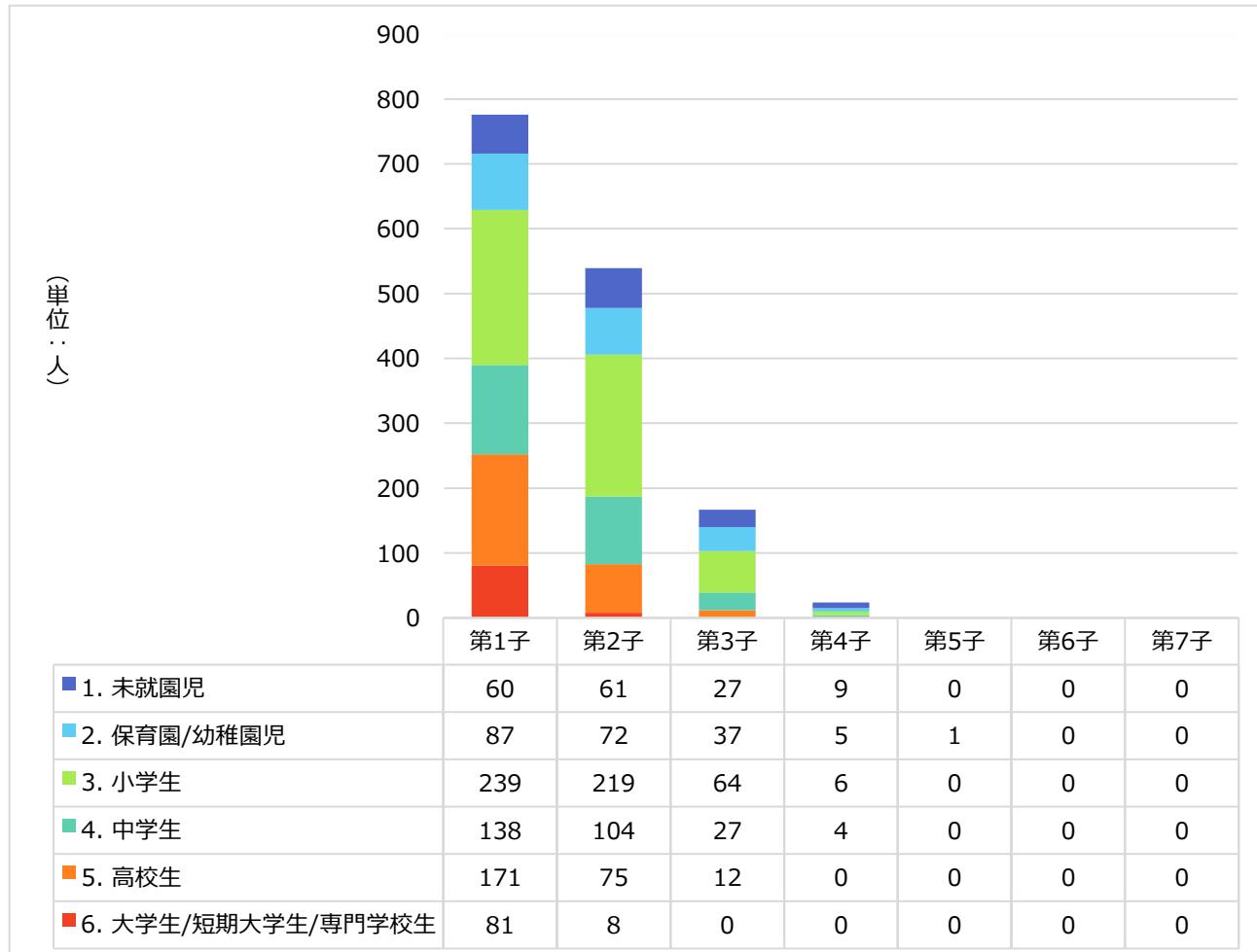
#### Q5：子供の人数について

【設問】 あなたにはお子さんが何人いますか（就職前で、大学生までのお子さんを対象としてください）



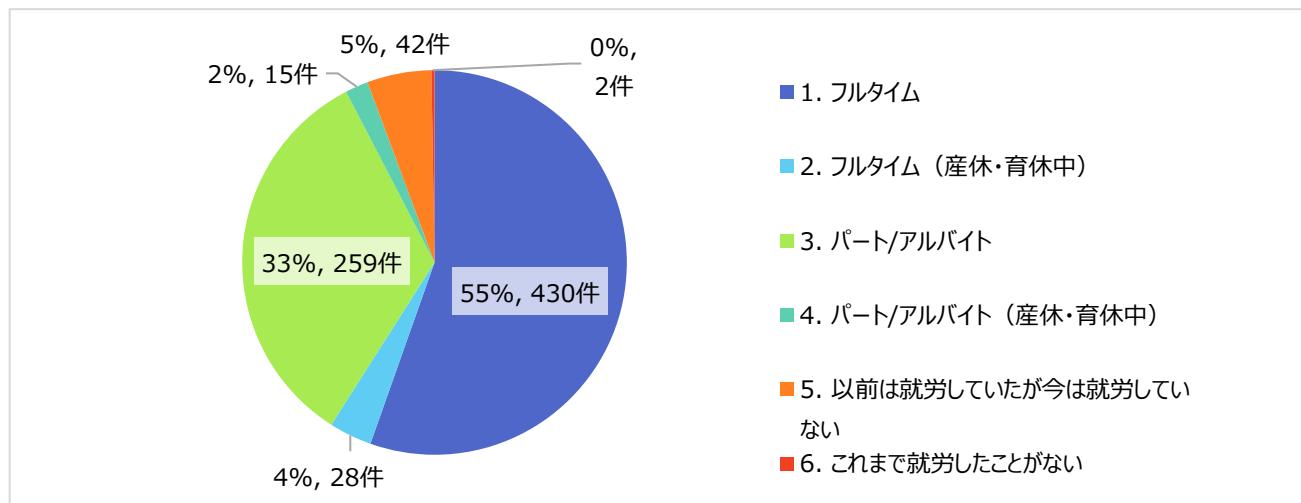
## Q6：子供の状況について

【設問】 ○人目のお子さんの状況を教えてください。（複数のお子さんがいらっしゃる場合は年齢の高い順にご入力ください）。

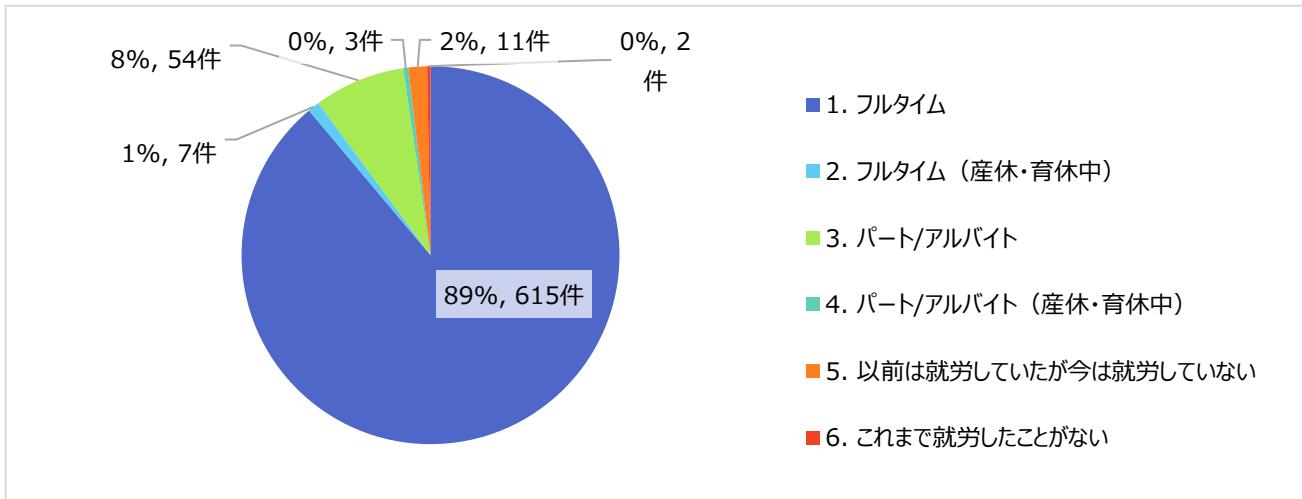


## Q7：回答者及び配偶者等の就労状況について

【設問】 あなたの就労状況を教えてください

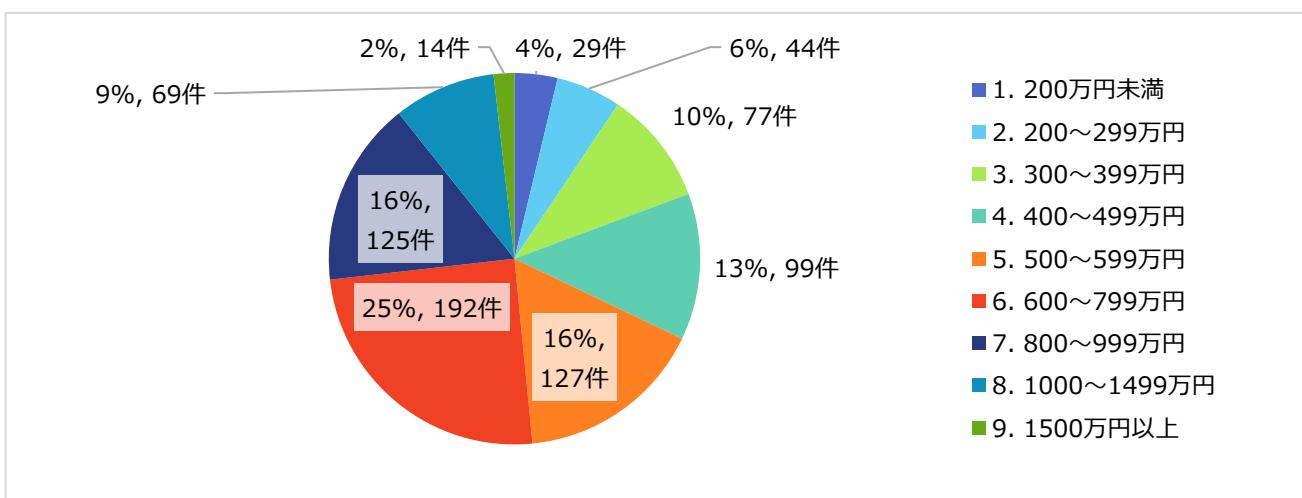


【設問】 あなたの配偶者・パートナーの就労状況を教えてください



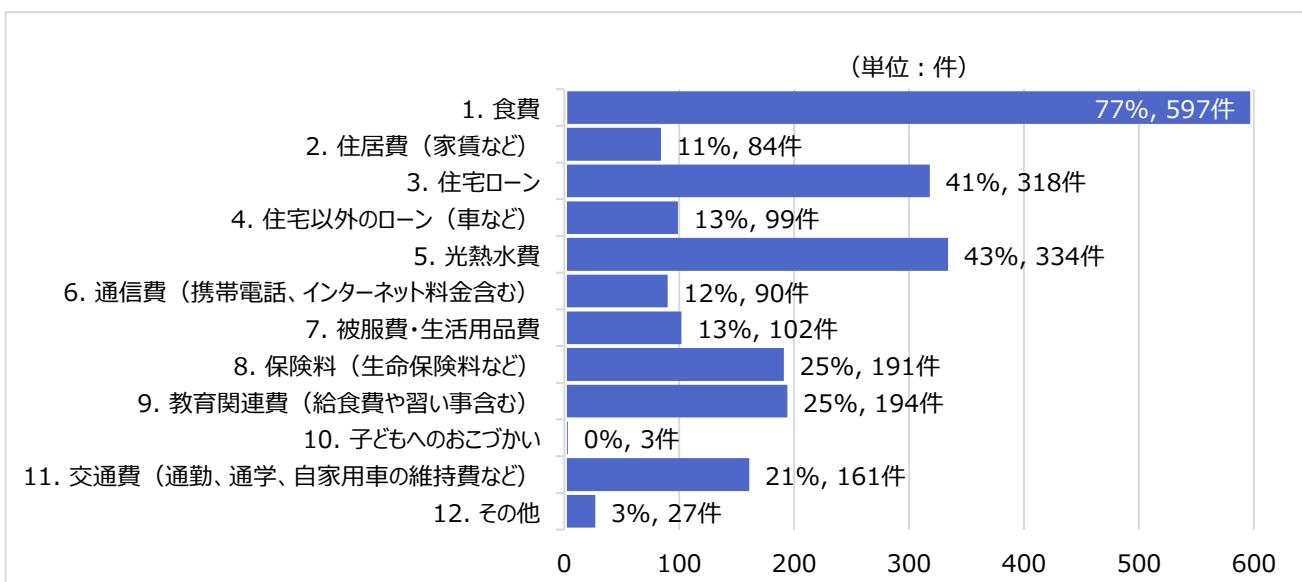
### Q8：世帯の年間収入について

【設問】 あなたの世帯全体の年間収入を教えてください（手当など全ての収入を含みます）

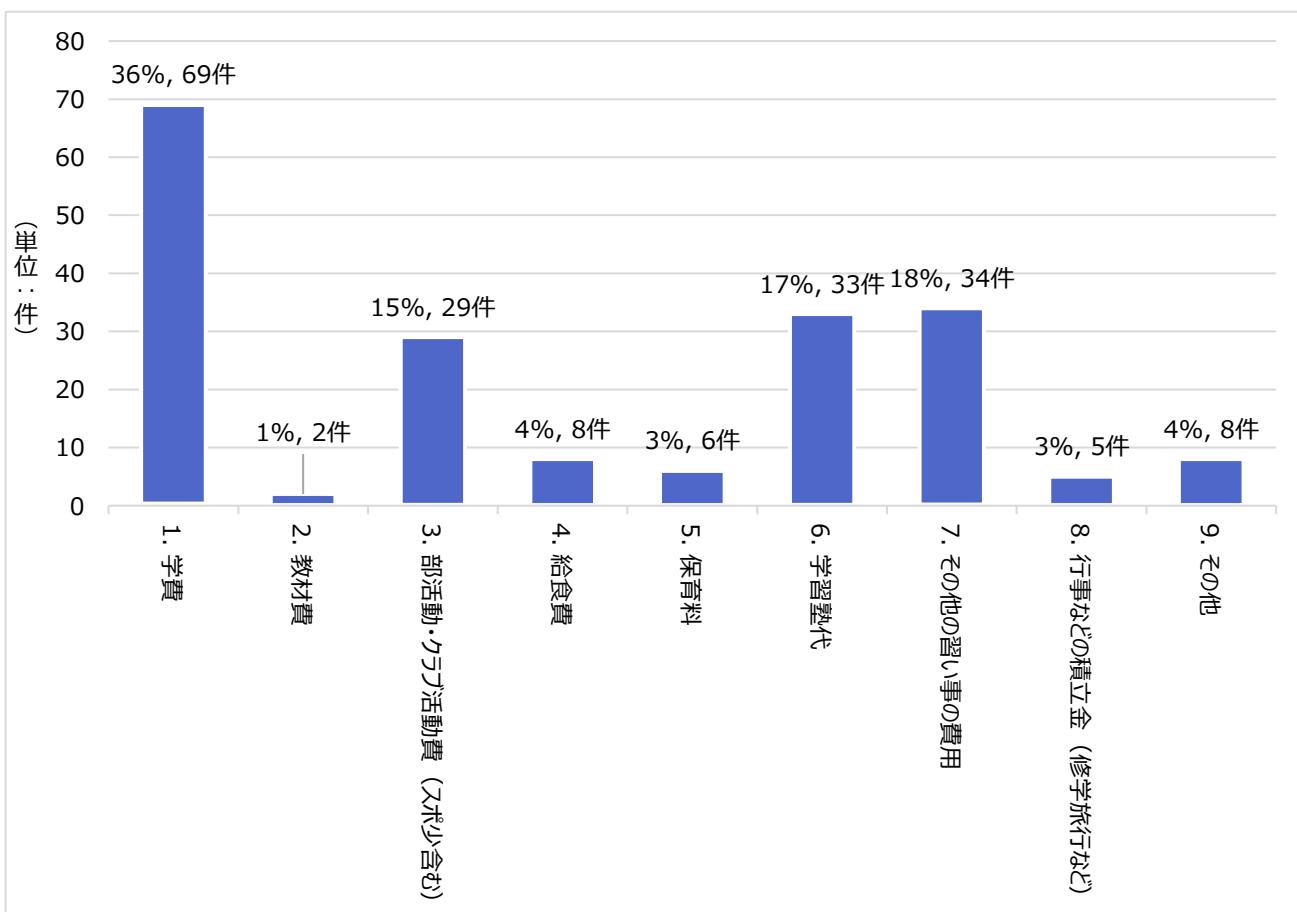


### Q9：家計において負担の大きい支出について

【設問】 家計において負担の大きい経費は何ですか。主なものを3つ以内で選んでください。



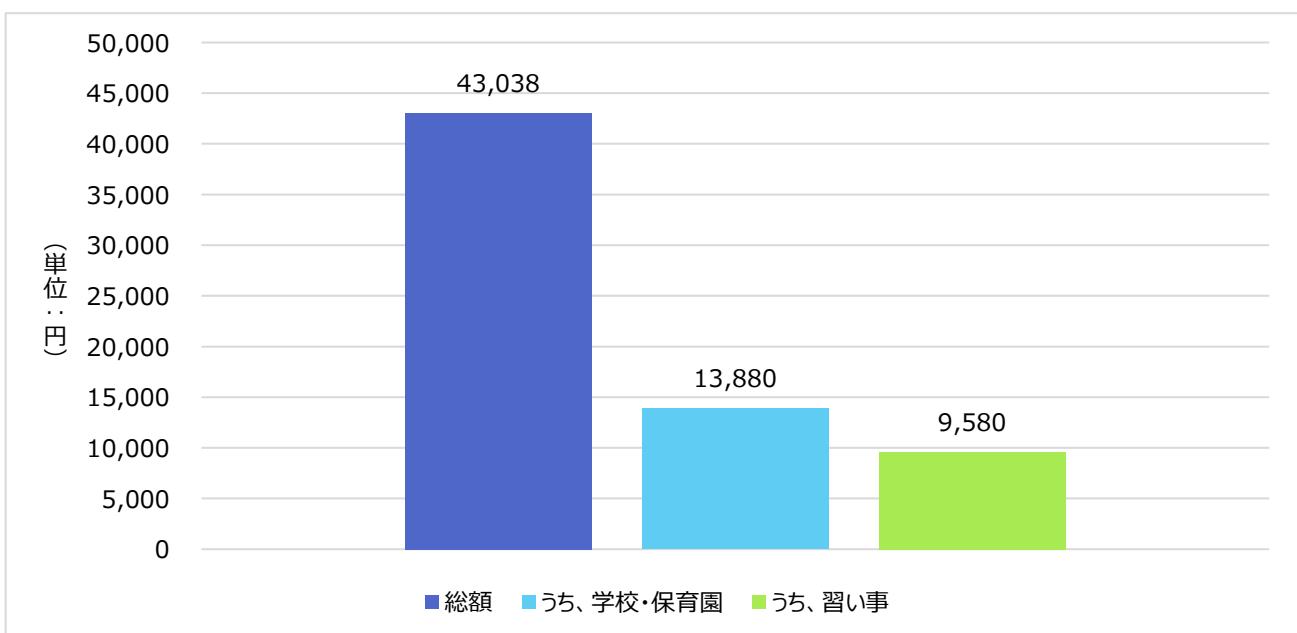
【設問】（上記の質問で「子どもの教育費」を選んだ方にお聞きします）教育費の中で特に負担となっている費用は何ですか。



#### Q10：子どもに係る月額費用について

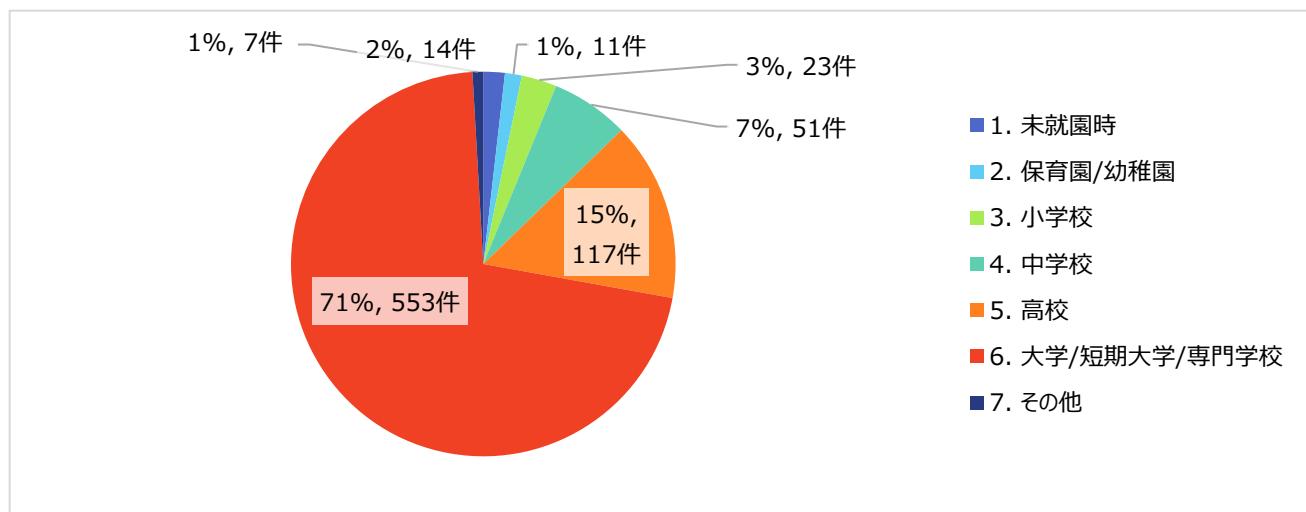
【設問】R6.7月の1か月間に1人目のお子さんにかかったおおよその費用を教えてください

- 【項目】
- ①食費、通信費、生活用品費、保育園や学校にかかる費用、習い事にかかる費用の総額
  - ② ①のうち、学校や保育園にかかる費用（保育料、給食費、教材費など）
  - ③ ①のうち、習い事にかかる費用（学習塾やスポーツなど）



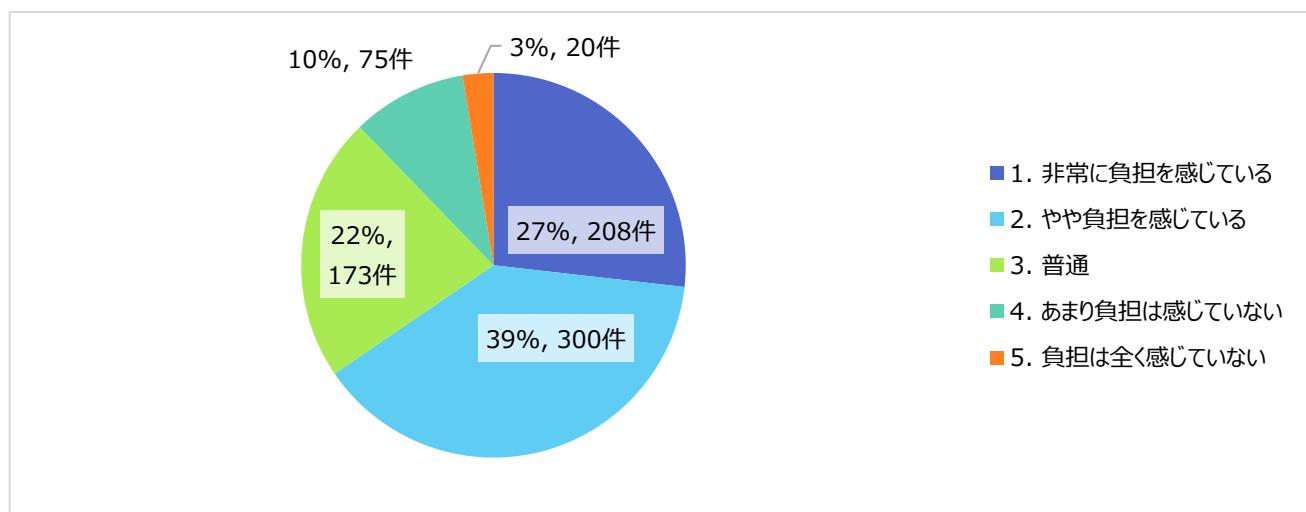
## Q11：子育てにかかる経済負担の大きな時期について

【設問】 子育てにかかる経済的負担感が一番大きいと思われる時期を教えてください



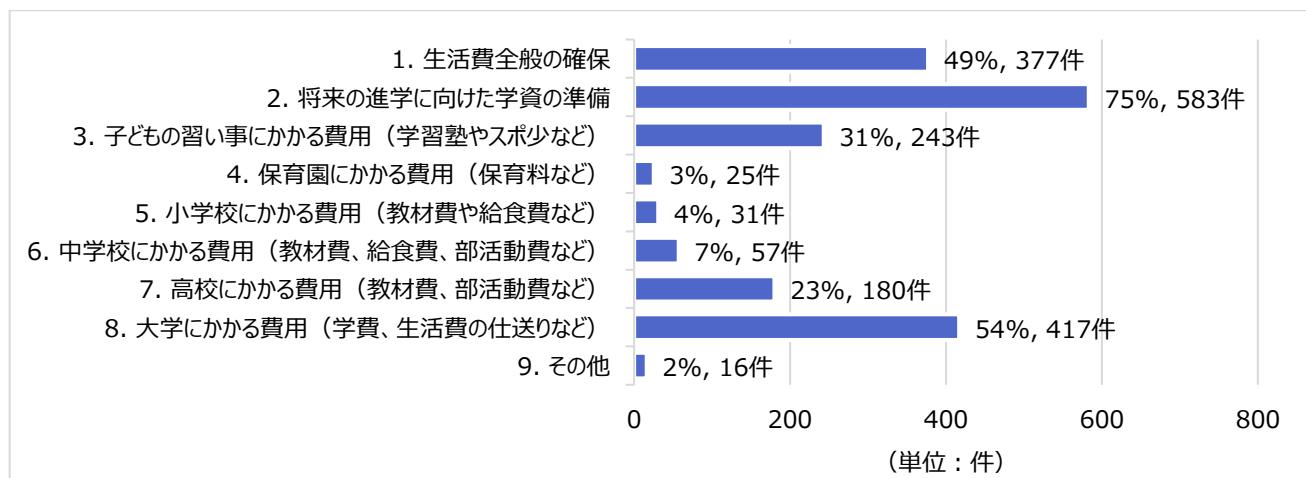
## Q12：子育てに関する経済的な負担感について

【設問】 現在、子育てに関して経済的に負担を感じていますか



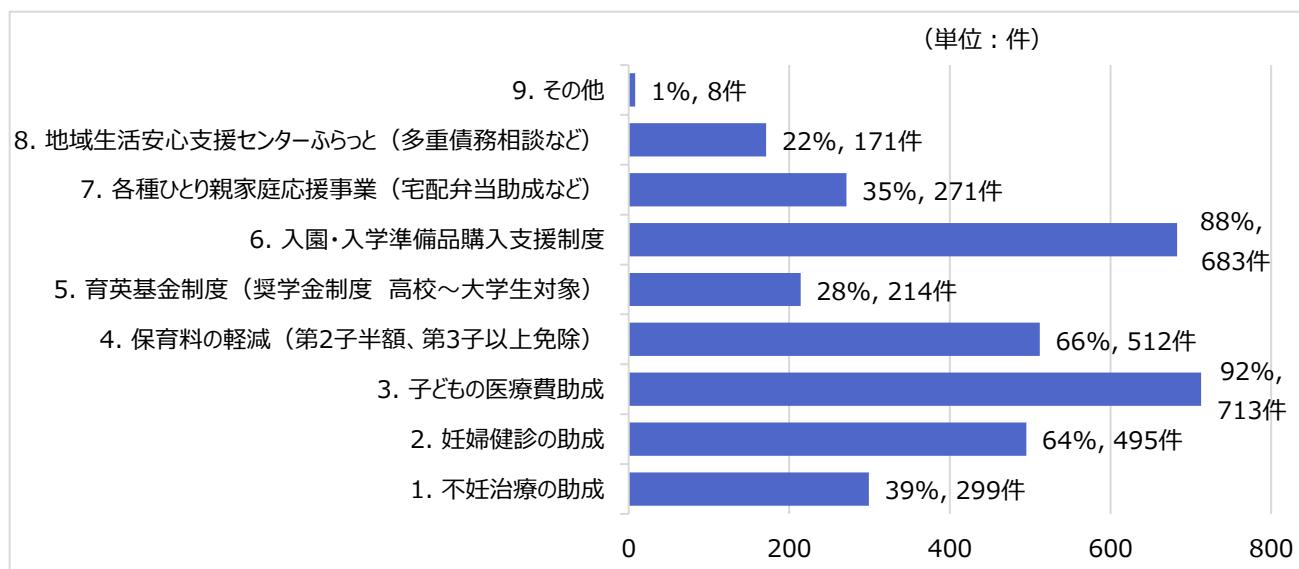
## Q13：特に負担となっていること、心配していること

【設問】 子育てに関する費用の中で、特に負担となっていることや心配していることはありますか。主なものを3つ以内で選んでください。



## Q14：飛騨市の子育て支援策について

【設問】 飛騨市独自の子育て支援策で知っているもの教えてください

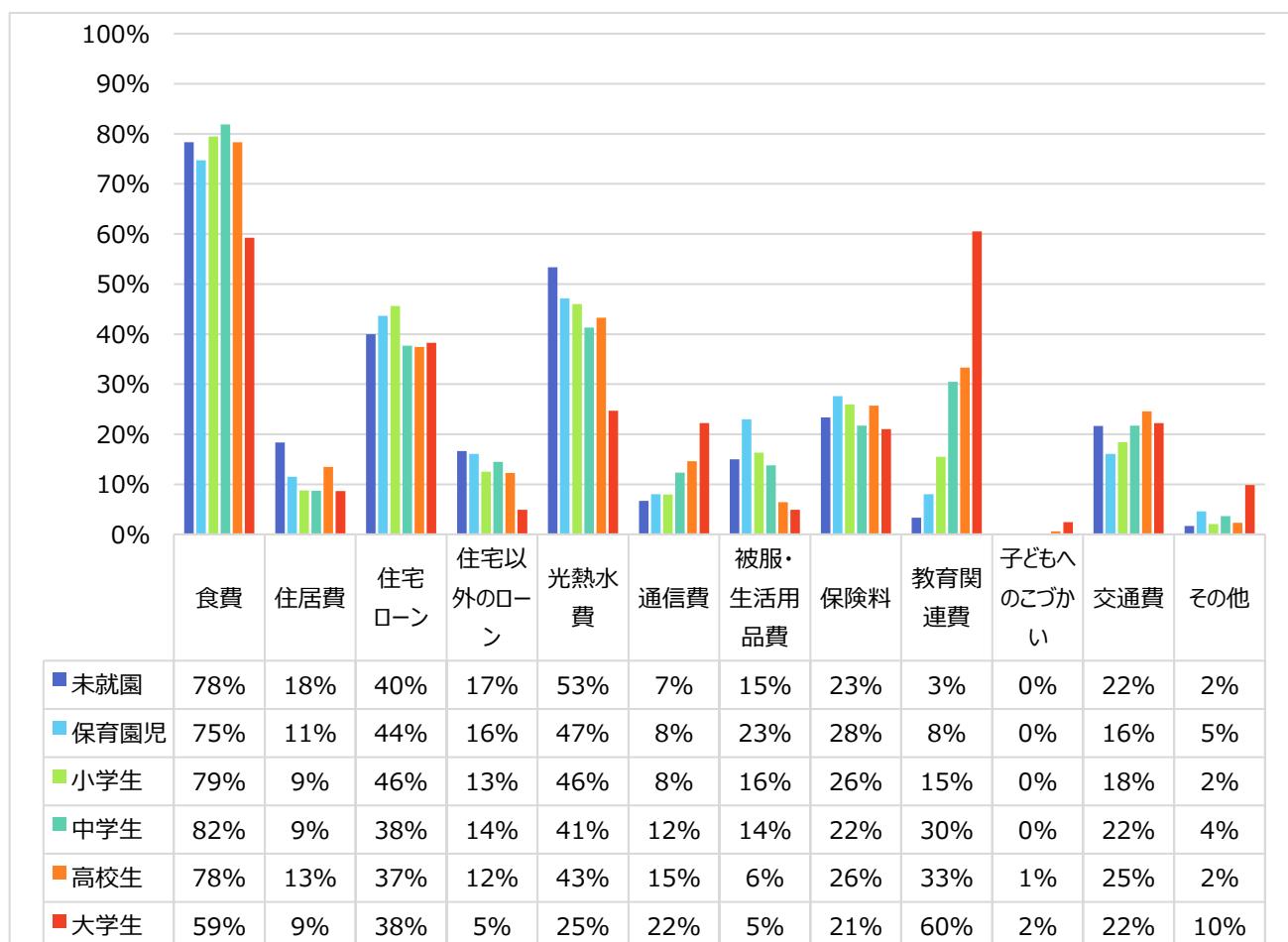


## 3 クロス集計結果

### 負担となっている経費（1人目の子どもの学校区分ごと）

【説明】 「Q9：家計において負担の大きい支出」について、一人目の子どもの学校区分ごとに集計。

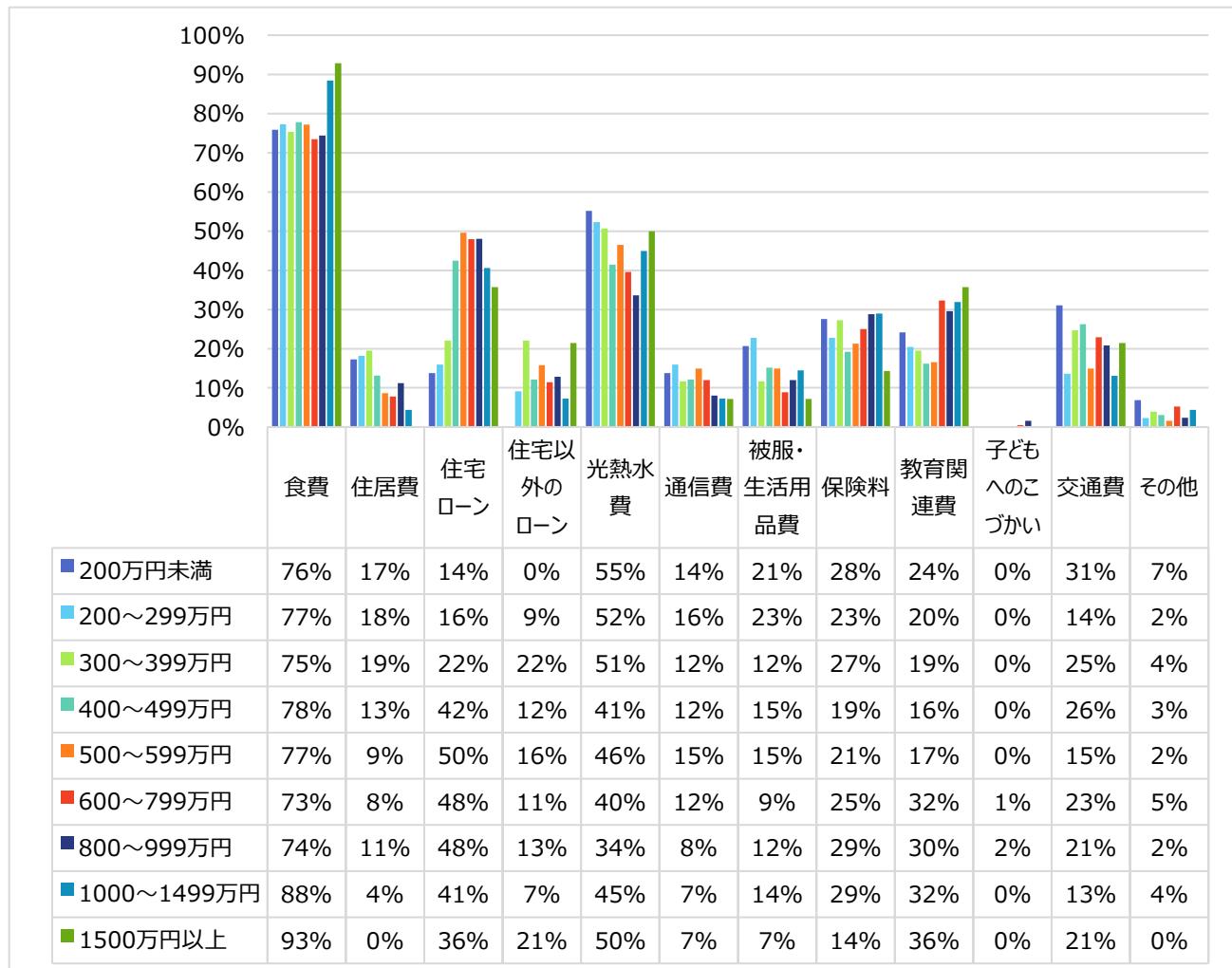
【傾向】 教育関連費は学校が上がるにつれて増加、逆に光熱水費・住宅ローンは減少する傾向。



## 負担となっている経費（収入階層ごと）

【説明】 「Q9：家計において負担の大きい支出」について、世帯の年間収入の階層ごとに集計。

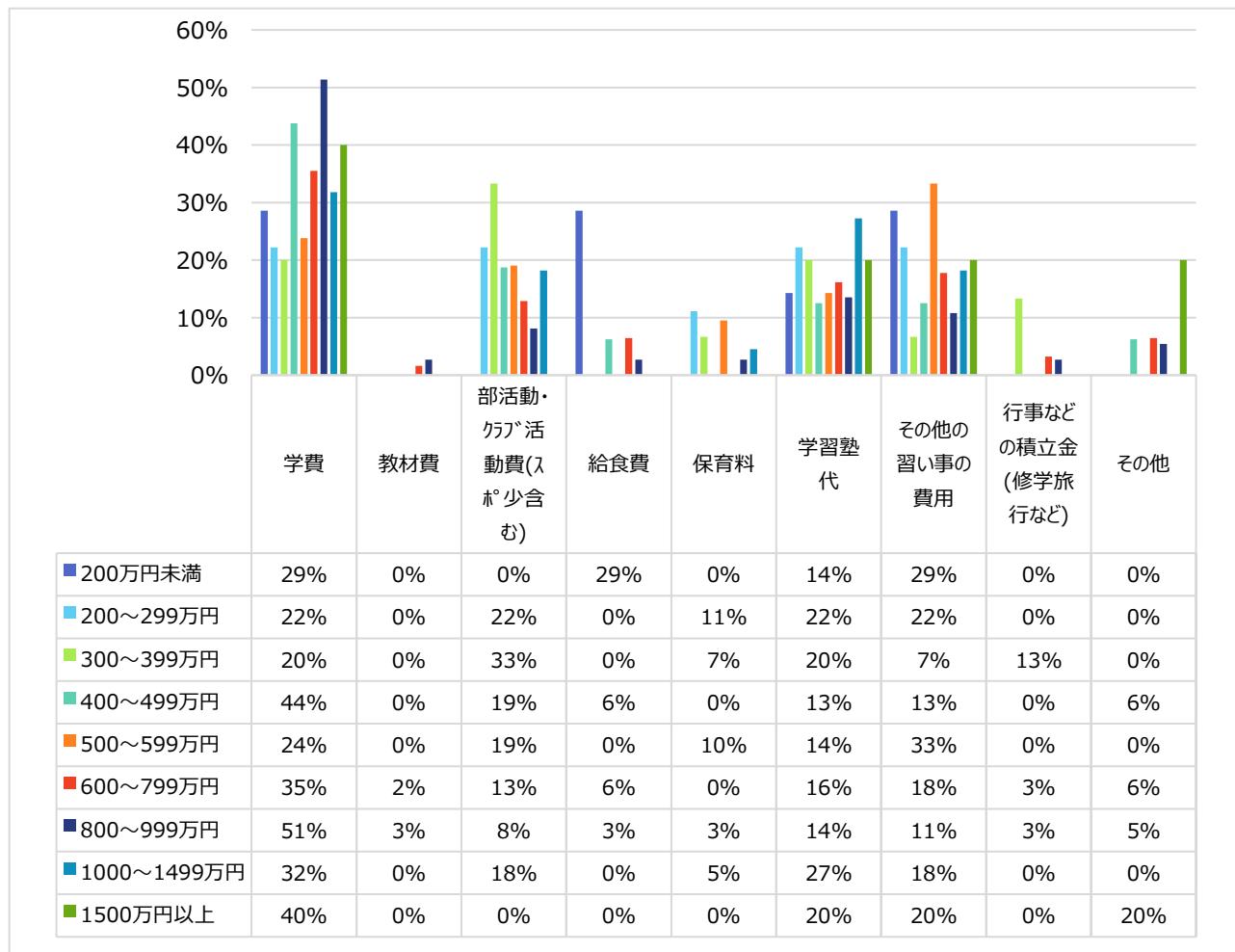
【傾向】 教育関連費の回答が、収入が増えると増加する傾向。



## 教育関連費内訳（収入階層ごと）

【説明】 収入階層ごとに教育関連経費の中で、負担の大きい費用を集計。

【傾向】 収入階層があがると、学費・学習塾代は増加、部活動・クラブ活動費では減少する傾向。

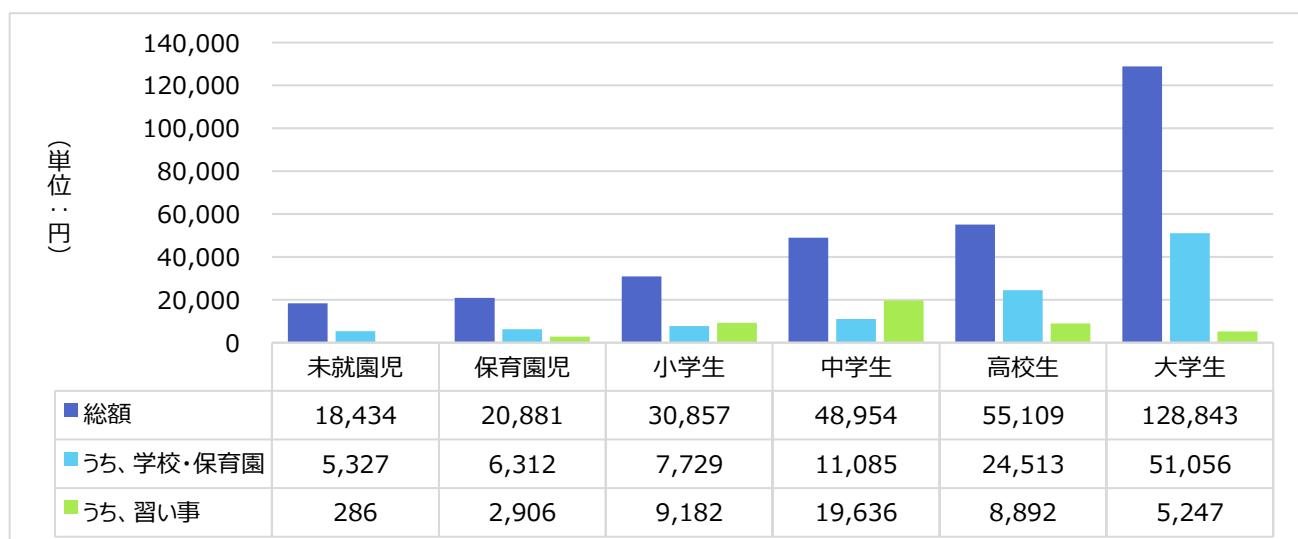


## 子どもに係る月額費用について（学校区分ごと）

【説明】 「Q10：1か月間にお子さん一人にかかる費用」について、学校区分ごとの平均金額を算出。

【傾向】 総額は、学校が上がるとともに増加し、大学生では高校生の2倍以上に増加。

習い事にかかる費用は、中学生が最も大きく、次いで小学生、高校生が大きい。



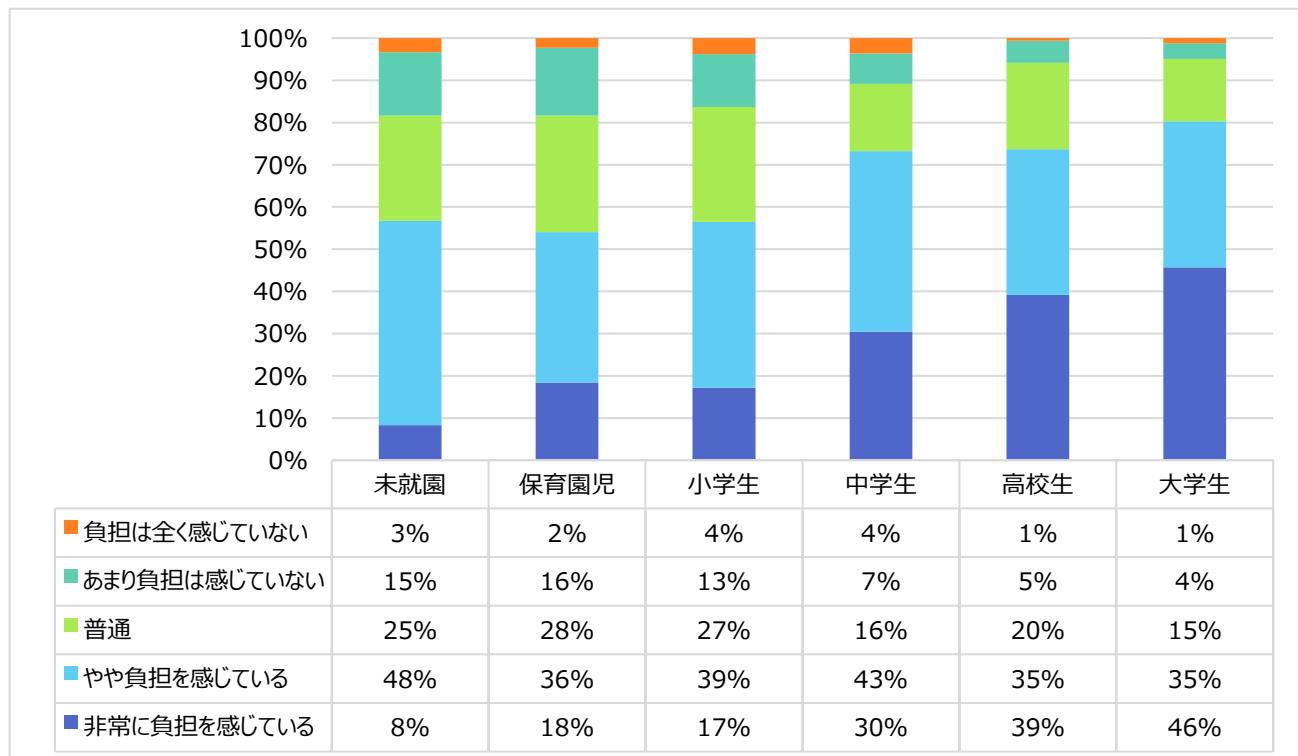
## 子育てに関する経済的負担感（学校区分ごと）

【説明】 「Q12：子育てに関する経済的な負担感」の回答を、一人目の子どもの学校区分ごとに集計した。

【傾向】 学校が上がるにつれて、「非常に負担」の世帯は増加傾向。

「非常に負担」「やや負担」の世帯は、中学校～高校で70%以上となり、大学で80%以上。

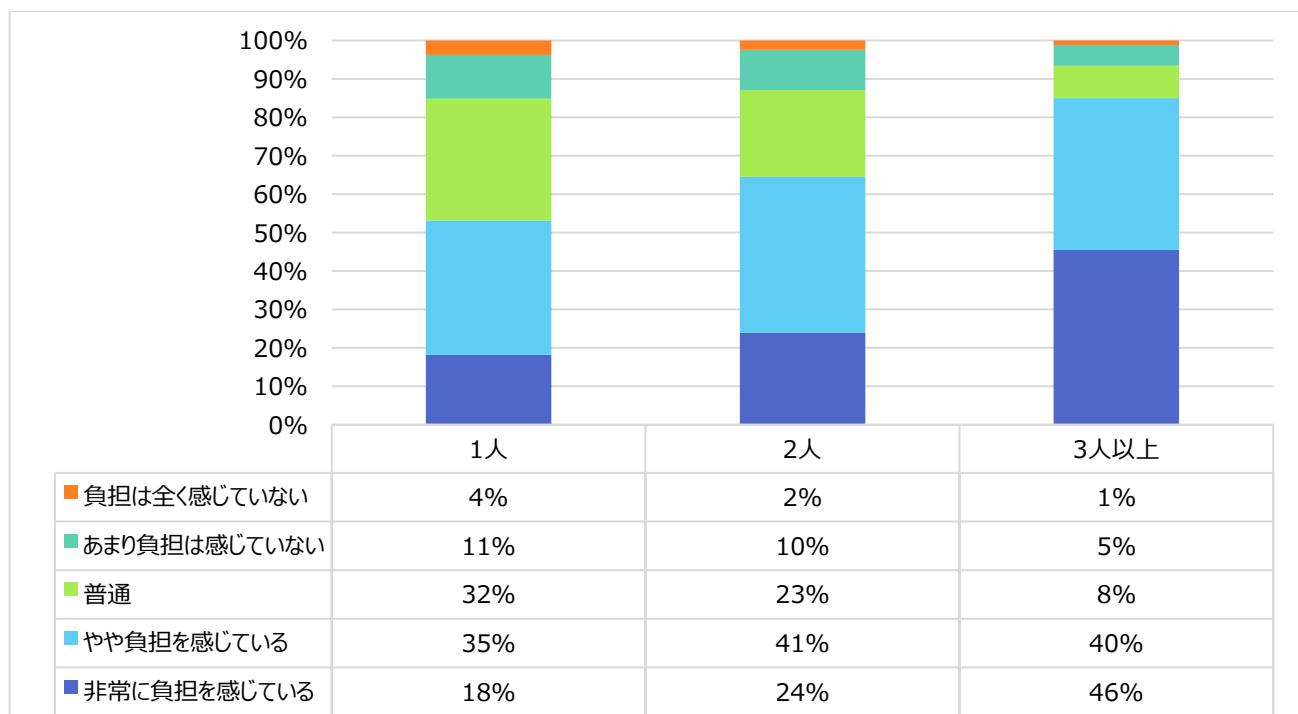
「非常に負担」の世帯は未就園では15%に対し、大学生では46%。



## 子育てに関する経済的負担感（子どもの数ごと）

【説明】 「Q12：子育てに関する経済的な負担感」について、子どもの数ごとに集計した。

【傾向】 子どもの数が増えるにつれて、負担感は増加傾向。



## 子育てに関する経済的負担感（世帯の収入ごと）

【説明】 「Q12：子育てに関する経済的な負担感」について、世帯の年間収入毎の階層ごとに集計した。

【傾向】 収入が低いほど、負担感は増加傾向。特に世帯収入200万円未満の世帯の負担感が大きい。

200万円～999万円の世帯では、収入が増加してもやや負担、非常に負担の割合は大きく変わらない。

